

初任行政研修に関する アンケート結果の概要

令和3年度初任行政研修は、前年から続く新型コロナウイルス感染症の流行により、研修期間の短縮や一コース当たりの受講者数の削減等の変更とともに、初任行政研修として初めて、第1週目と第2週目の実施時期を約3ヶ月間空けて実施することとなりました。これを奇貨として、第2週目が始まるタイミングで、初任行政研修第1週目を受講した影響をうかがうアンケートを行いました。

また、平成9年度（1997年度）から始まった初任行政研修が令和3年度（2021年度）で25年を迎えたことから、平成28年度（2016年度・開始から20年）に実施した、過去の受講者に対するアンケートと同様のアンケートを、令和3年度3日目フォローアップ研修受講者に対して行いました。

これらアンケートの結果について御紹介いたします。

1. 初任行政研修受講の影響をうかがうアンケート

(1) 令和3年度の初任行政研修

新型コロナウイルス感染症流行前の令和元年度までは、初任行政研修は、5月から7月にかけて、5コース（1コース当たり約140人）、5週間（公務員研修所での合宿二週間、介護等実地体験、都内研修施設での通勤研修、地方自治体等における実地体験各一週間）で実施していました。

しかし、前年から続くコロナ禍により、令和3年度は、一コース当たりの人数を研修所講義室等でソーシャルディスタンスを保てる人数（約90名）とし、コース数は8コースとしました。また、第1週目として5月から7月までの間に3日間、第2週目として8月から10月までの間に5日間と、時期を分けて日程を設定しましたが、結果として全日程がオンラインでの実施となりました。具体的には、Web会議システムを用いたライブ配信を行い、受講者は各自の勤務先や自宅から受講しました。

研修内容は、これまでの初任行政研修で実施してきた内容から、オンライン実施に適した科目を選ぶとともに、ブレイクアウトセッションを活用したグループ討議の機会を多く設けて、受講者が様々なメンバー構成で議論できるように心がけました。また、1コマ当たりの時間数の短縮などの工夫を行いました。

(第1週)

月	9:30	10:00	10:30	11:00	11:30	12:00	12:30	13:00	13:30	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00	16:30	17:00	17:30	18:00
月	全体ミーティング 班別自己紹介	開講式、オリエンテーション、全体自己紹介(1)	チームビルディング	昼食・企画委員打合せ	若手公務員の歩み	全体自己紹介(2)	全体ミーティング	交流										
火	全体ミーティング 班別自己紹介	特別講義	昼食	市民との協働について考える	全体自己紹介(3)	全体ミーティング	交流											
水	全体ミーティング 班別自己紹介	公務員倫理を考える(グループ1) 公務員倫理を考える(グループ2)	昼食	全体自己紹介(4)	振り返り・全体発表	意見調査票提出	全体ミーティング	交流										

(第2週)

月	9:30	10:00	10:30	11:00	11:30	12:00	12:30	13:00	13:30	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00	16:30	17:00	17:30	18:00
月	全体ミーティング	オリエンテーション	アイスブレイク・役割分担	昼食	資料配布・ビデオ視聴	行政政策事例研究(基調講義)	行政政策事例研究(班別討議)	行政政策事例研究(班別討議)										
火	全体ミーティング	人権	昼食	全体ミーティング	行政政策事例研究(班別討議)													
水	全体ミーティング	特別講義	昼食	全体ミーティング	行政政策事例研究(班別討議)													
木	全体ミーティング	行政政策事例研究(班別討議)	昼食	行政政策事例研究(全体討議)													振り返り	
金	全体ミーティング	国際行政の現場 又は 諸外国から見た日本	昼食	開講式	小論文作成 意見調査票記入													

(2) 第1週目受講の影響をうかがうアンケートの実施方法と結果

第2週目を実施するタイミングで第1週目の研修を受講した影響をうかがうアンケートを行い、回答数は669人でした。アンケート結果は以下のとおりです。(意見調査票は後掲)

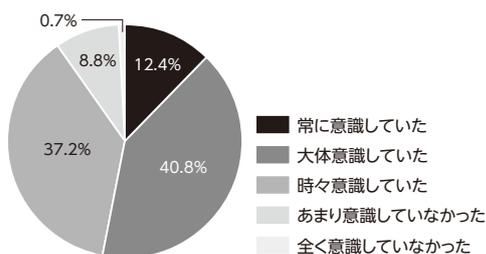
①初任行政研修第1週目を受講して、心に残っていることの内容

第一週目を受講して、心に残っていることを一つ30文字程度で記載してもらいました。

単語の出現頻度が多かった名詞は「大切さ」、「重要」、「公務員」、「省庁」、「同期」、「現場」など、動詞は「持つ」、「考える」、「知る」など、形容詞は「広い」という言葉でした。代表的な意見を御紹介します。

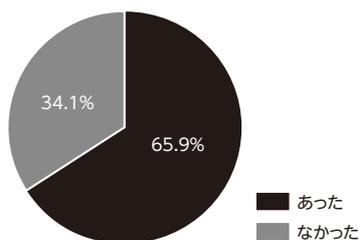
- ・所属省庁の価値観に縛られない広い視野を持つことの重要さ
- ・霞ヶ関の役所外の人とのつながりを持ち、広い視野を持てるようにすることと現場を知ることの大切さ
- ・様々な立場に立ち、多角的に物事を考えることの大切さ
- ・他省庁同期との横の連携の大切さ
- ・他省庁同期との意見交換による新たな気づきや発見、悩みの共有等
- ・現場の声に耳を傾けつつ、広い視野で国民のための政策立案を行うことの重要性
- ・公務員として、国家国民に奉仕する気持ちを持つこと
- ・公務員としての自覚を持って、自己研鑽に励むことの大切さ

②心に残っていることを意識し続けられましたか



第1週目を受講して、心に残っていることを意識し続けられたかを聞きました。第1週目からこのアンケートを実施した第2週目までの間は約3ヶ月間でしたが、その間、「時々意識していた」という者も含めると9割以上の者が研修で心に残っていることを意識し続けられたと回答しています。研修受講者それぞれが、それぞれなりに、研修受講による意識変容があったことがうかがえます。

③心に残っていることが、業務遂行上、直接的又は間接的を問わず役立つことがありましたか

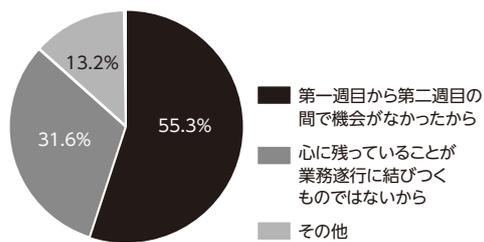


心に残っていることが、業務遂行上、直接的又は間接的を問わず役立つことがあったかを聞いたところ、約66%の者が「あった」と回答しました。「あった」と回答した者の具体例として代表的なものを御紹介します。

- ・日々の業務に追われ、自分の業務内容がどう人のために役立っているのか分からないことが時々あったが、自身の問題意識や志を振り返ることで、業務上大切にしたいことや今の仕事が将来に繋がっていることを実感できた。
- ・慣れない職務の中で、モチベーションの維持や職務に対して社会を意識するように行動できた。
- ・国会対応等様々なスピードを持った対応が求められる中でも、状況から自分がすべきことを幅広い視点から瞬時に考え、必要なことをまとめる必要がある場面が多くあった。
- ・政策について多様な意見や立場があることを理解した上で意見聴取等の業務を遂行できた。
- ・普段の総括業務ではカウンターパート（原課、他局、他省庁等）と業務の受発注で接することが多い。その中で相手がどういう情報が欲しいのか、何を気にしているのかを考えることで、少しでも相手が作業しやすいように心がけている。
- ・政策評価書や独法評価書を点検する際、取りまとめ部局の職員というだけでなく、一国民として記載内容が理解でき、納得できるか、という観点でチェックできた。

- 実際に業務を行う中で、現在運用中の制度が現場から見てどうなのか話を聞き、どこを改善していくべきなのか考えるきっかけになった。
- 仕事を進める上で他省の同期と情報共有しながら進めることがあった。
- 業務内容は異なるが、同じように働く仲間がいると思うと、大変な時も仕事に真摯に取り組むことができた。
- 研修終了後も関わりが続いており、いい刺激になっている。
- 日頃から読書や新聞、学術書などを読む癖をつけることができた。

③-2 「なかった」と答えた場合の理由



上述の質問で「なかった」と答えた約34%の者に、その理由を聞いたところ、「第1週目から第2週目までの間で機会がなかったから」が約55%、「心に残っていることが業務遂行に結びつくものではないから」が約30%でした。「その他」と回答した者の具体例を御紹介します。

- 目の前の業務をこなしていくことに精一杯で、あまり意識することができなかつたと感じるため。
- 心に残っていることが、長期的に見て、いつか役に立つことを期待する性質のものだから。

(3) まとめ

今回の調査結果から、初任行政研修を受講したことにより、「国家公務員としての一体感を醸成するとともに、全体の奉仕者としての素養を身に付けさせ、国民の視点に立って行政を遂行する姿勢を学ばせる」という研修のねらいに沿った意識の変容が多く受講者にみられることが分かりました。

また、初任行政研修では業務の具体的な進め方など新規採用職員である受講者の業務そのものに直接役立つ内容を教えておりませんが、相手の立場も含めた広い視野から物事を考えながら仕事をできるようになるなど、受講者の業務遂行に具体的な良い影響を与えていることも分かりました。このほか業務への役立ちだけでなく、同じような仲間がいるという意識が良い刺激や心の支えとなっていることも分かりました。

このアンケートとは別に、初任行政研修第2週目が終了したときに実施したアンケートの結果では、研修全般の評価として「大変有意義だった」、「おおむね有意義だった」とする者が合わせて約94%となっています。研修内容の性格上、テストなどにより理解度を測ることはできませんが、多くの受講者において意識変容がみられることや業務遂行への良い影響を与えていることから、研修内容を適切に理解してもらっていることが推測されます。

このほか、各府省研修担当者を対象として実施した別の調査では、人事院の研修に参加させる職員に期待していることとして、「自府省内で得られない幅広い視野の獲得」、「省庁の枠を超えた幅広い人脈の構築」を多くの府省が挙げました。この調査は、初任行政研修のみを対象としたものではありませんでしたが、「初任行政研修において、介護施設や自治体などの現場を体験することで、業務において多角的な視点が必要だと感じ、定期的に異なる現場経験をすることで自己研鑽に励みたいとの意見も聞かれる」といった初任行政研修に言及した具体的なコメントも寄せられました。

公務員研修所が実施する研修について、このような観点でアンケートを実施したことは初めての試みでしたが、今後も機会を捉えて、実施する研修が所期の目的を達成しているかどうか検証していきたいと思います。

2. 初任行政研修に関するアンケート

初任行政研修20周年に当たる平成28年度に、それまでに初任行政研修を受講した者に対するアンケートを行いました。その時に行ったアンケートと同様のアンケートを、令和元年度初任行政研修受講者である令和3年度3年目フォローアップ研修受講者に対して行いました。

(1) アンケートの対象者等

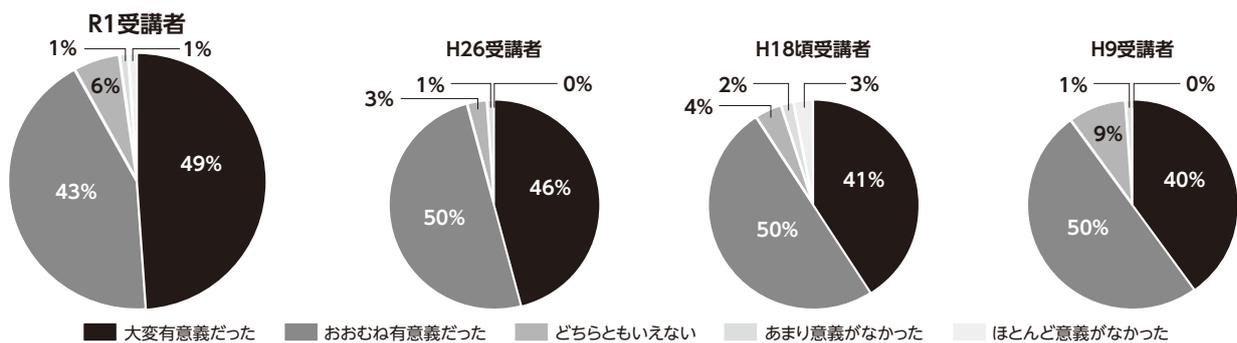
アンケートの対象者等は次のとおりです。①が今回調査の対象者で、②～④が平成28年度調査の対象者になります。

- ①令和3年度3年目フォローアップ研修受講者（以下「R1受講者」と表記します。）
 - 令和元年度初任行政研修受講から2年経過
 - 回答者数551人（Microsoft Forms・586人）
- ②平成28年度3年目フォローアップ研修受講者（以下「H26受講者」と表記します。）
 - 平成26年度初任行政研修受講から2年経過（当時）
 - 回答者数174人（電子メールで送付・528人）
- ③平成28年度課長補佐級研修受講者（以下「H18頃受講者」と表記します。）
 - 初任行政研修受講から概ね10年経過（当時）
 - 回答者数58人（電子メールで送付・186人）
- ④平成9年度初任行政研修受講者（以下「H9受講者」と表記します。）
 - 初任行政研修受講から20年経過（当時）
 - 回答者数70人（電子メールで送付・225人）

(2) 初任行政研修に関するアンケートの結果

アンケート結果は以下のとおりです。（意見調査票は後掲）

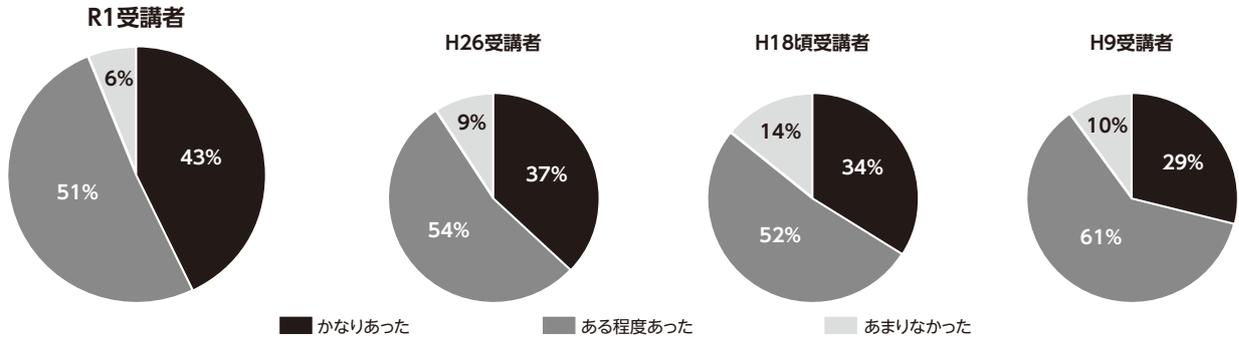
①今振り返って、初任行政研修は意義があったと思いますか



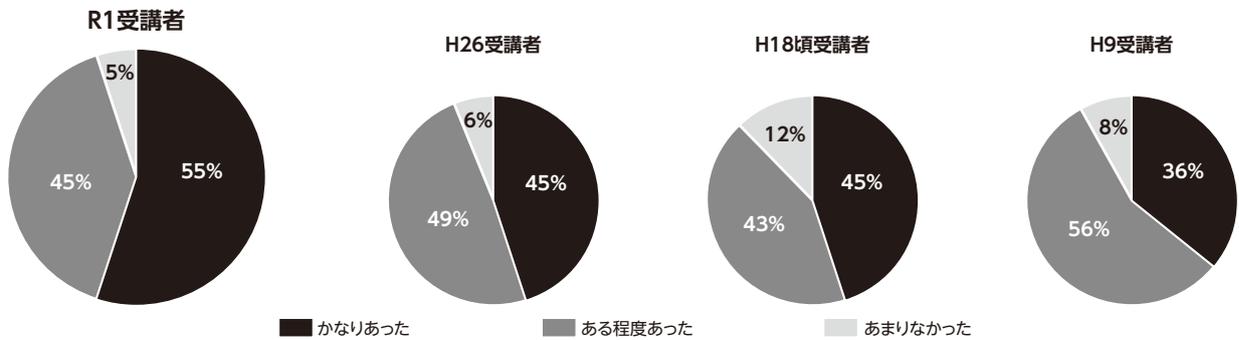
今振り返ってみて、初任行政研修は意義があったかを聞いたところ、9割以上の者が「大変有意義だった」又は「おおむね有意義だった」と回答しており、平成28年度調査結果と同様の傾向となっています。

②次の項目について、初任行政研修を通じて新たな気づきがあったと思いますか

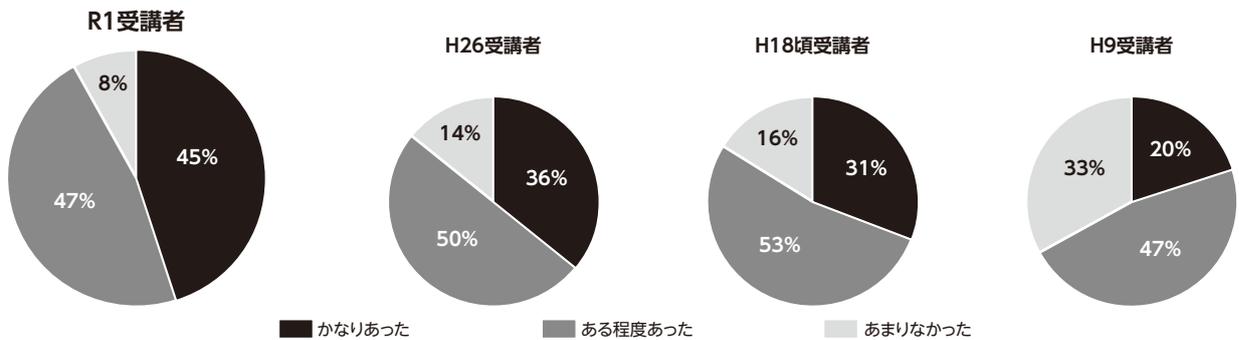
i 従来にはなかった新しい視点の獲得



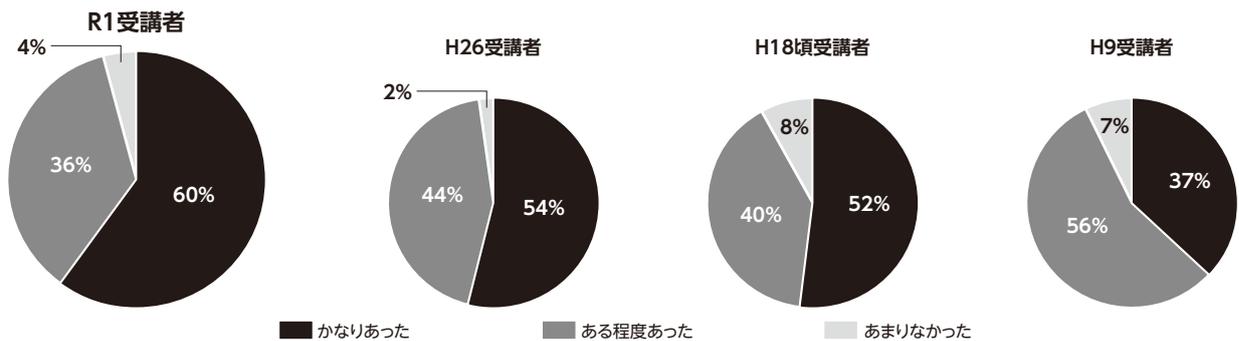
ii 異なった価値観、新しい価値観の需要



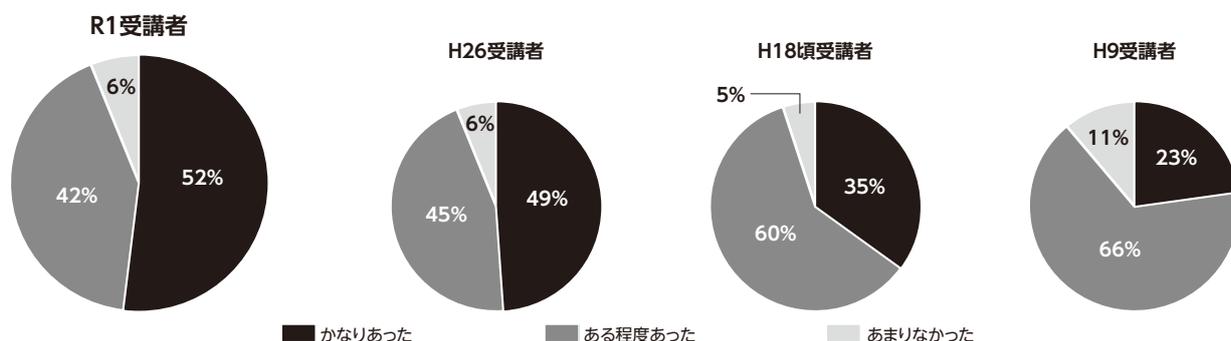
iii 地域の歴史・分化、社会・経済への関心



iv 多様な人々の多様な立場や考えの理解



v 社会の在り方や行政の役割の考察



全ての項目において、いずれの階層でも8割から9割の者が、気づきが「かなりあった」、「ある程度あった」と回答している点は、平成28年度調査結果と同様の傾向となっていますが、R1受講者では「かなりあった」とする者の割合が少し高くなっています。

初任行政研修は、基本となるカリキュラム構成そのものや、カリキュラムで取り上げるテーマや実施する内容について、受講者による意見調査票結果や、社会情勢の変化などを踏まえ、毎年見直しを行いながら、実施しています。

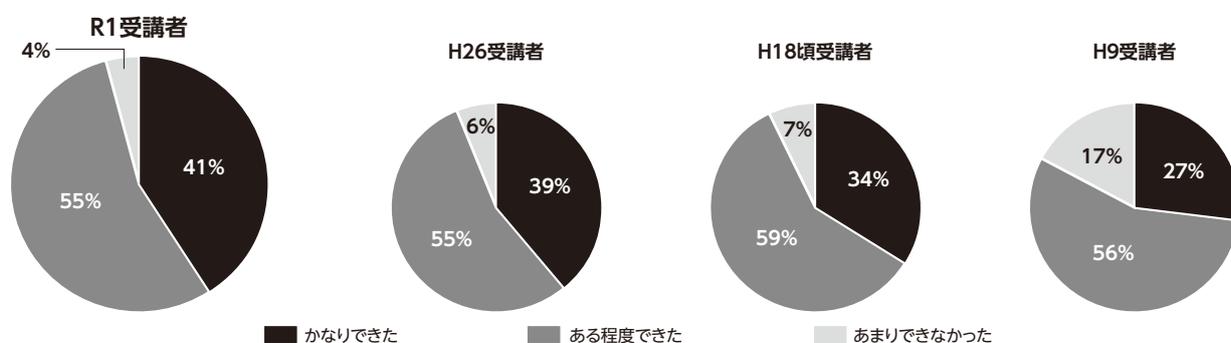
平成26年度と令和元年度においては、基本となるカリキュラム構成は大きく変わっておりません。しかし、例えば、平成26年度においては、「被災地支援（ボランティア）」（被災地の現場を見て、被災住民等の話を聞き、ボランティア活動を行うなどして、被災地の実態について理解を深め、復興に向けた行政やNPOなどの取組について考えること等がねらい）を行っていたところ、令和元年度では、「被災地復興・地方創生プログラム」（被災地をはじめとする地方の現場を見て、住民、行政機関、NPO等の関係者と震災からの復興や地方創生への取組等について意見交換し、復興や地方創生の在り方を検討することがねらい）に変更するなど科目のねらい等を修正して実施しています。

科目のねらいや内容を、社会情勢の変化や研修ニーズを踏まえて変更・調整することで、受講者自身の積極性や研修中に雰囲気にも良い影響を与えることが考えられます。

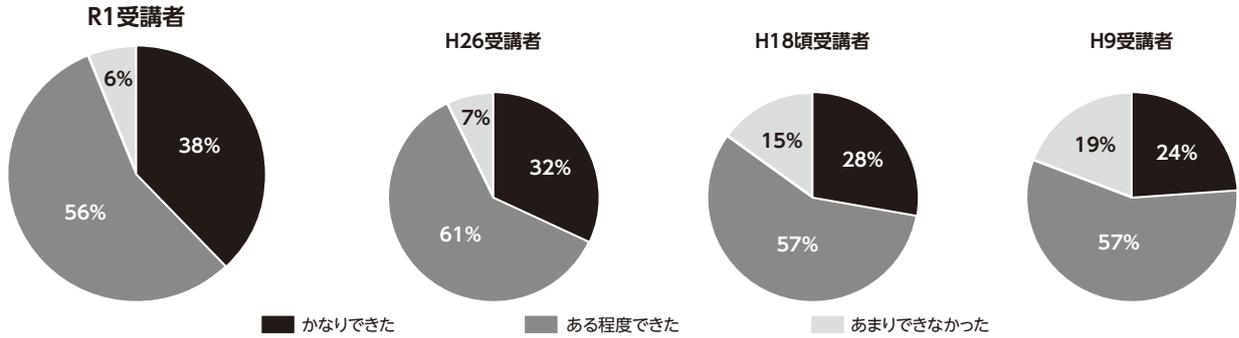
公務員研修所としては、受講者自身の参加意欲を高めるための工夫などに引き続き取り組んでいきたいと思えます。

③次の項目について、初任行政研修を通じて醸成又は自覚することができたと思えますか

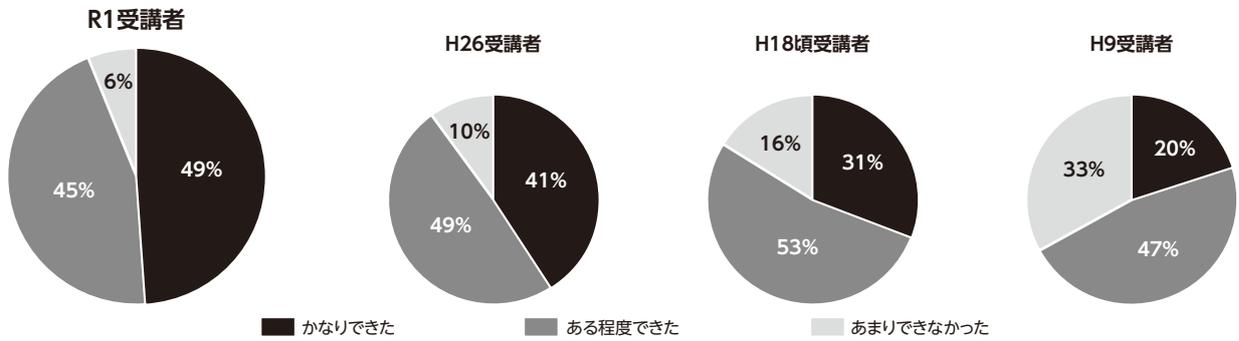
i 公務員の使命と職責



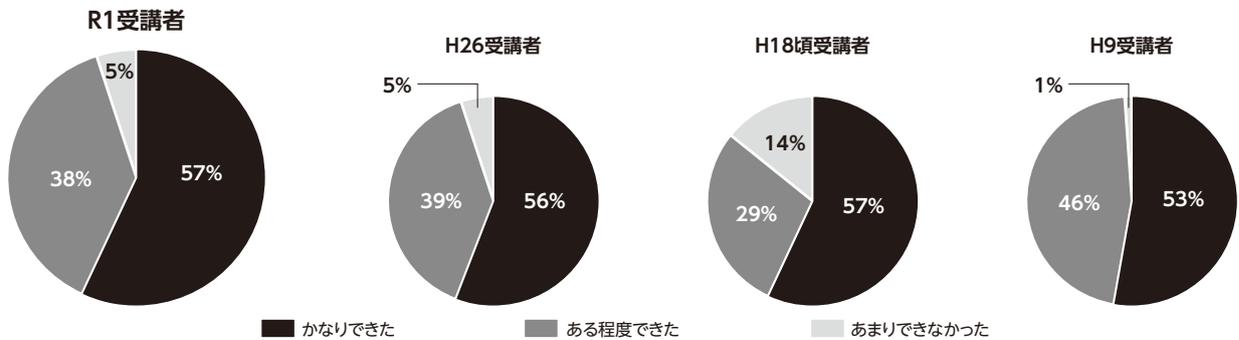
ii 公務員の倫理観



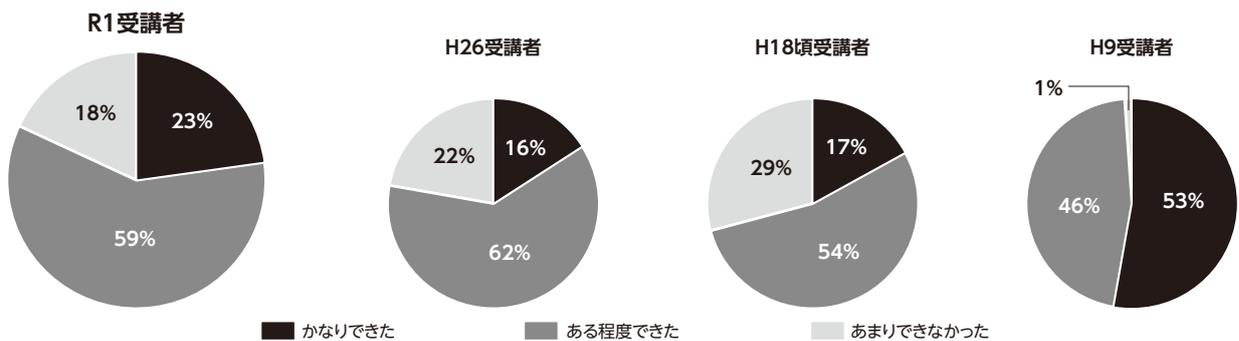
iii 現場重視、国民目線への意識



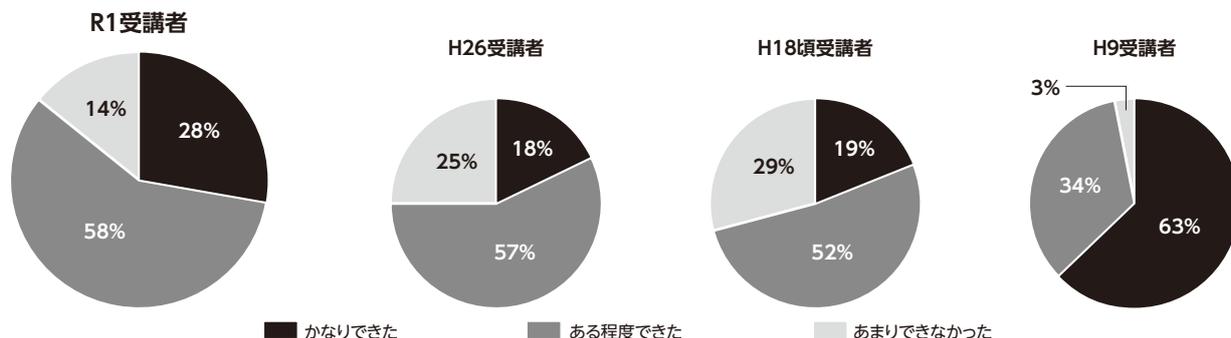
iv 府省の枠を超えて政策を考える意識、府省を超えた信頼関係



v 政策の企画・立案に必要な能力



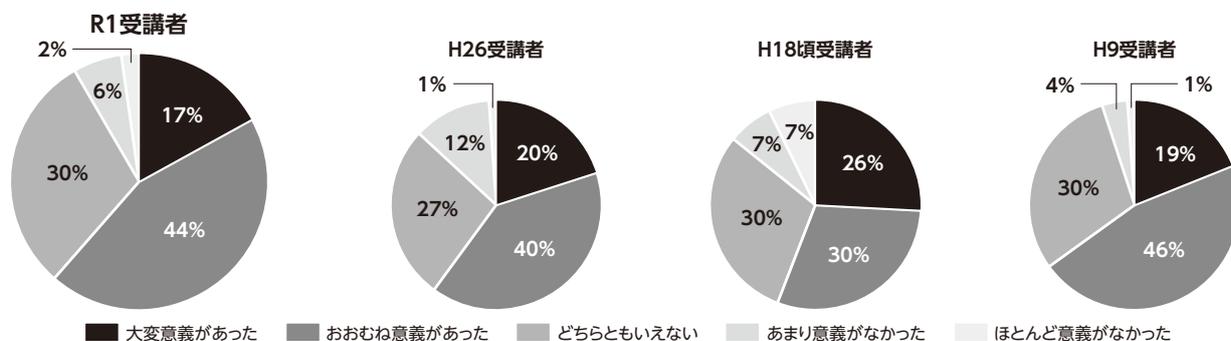
vi 行政ニーズの多様化、複雑化への対応に必要な能力



6項目中「公務員の使命と職責」、「公務員の倫理観」、「現場重視、国民目線への意識」、「府省の枠を超えて政策を考える意識、府省を超えた信頼関係」の4項目については9割以上の者が「かなりできた」又は「ある程度できた」と回答しています。特に、「府省の枠を超えて政策を考える意識、府省を超えた信頼関係」については、6割近い者が「かなりできた」と回答しており、初任行政研修の目的の一つである「セクショナリズムの弊害の排除を基本的な視点として、国民全体の奉仕者としての自覚、国民全体の視点から施策を行うための基礎的素養・見識を養う」ことが達成されているものと考えられます。

他方、「政策の企画・立案に必要な能力」、「行政ニーズの多様化、複雑化への対応に必要な能力」については、他の4項目よりも「かなりできた」又は「ある程度できた」とする者が8割強と相対的に低くなっていますが、前回調査結果のH26受講者よりは数値が高くなっています。初任行政研修では、府省横断的なテーマについての政策提言などを通じて、こうした能力の伸長を図っており、引き続きその充実に努めていきたいと思えます。

④初任行政研修がセクショナリズムの弊害是正に意義があったと思えますか

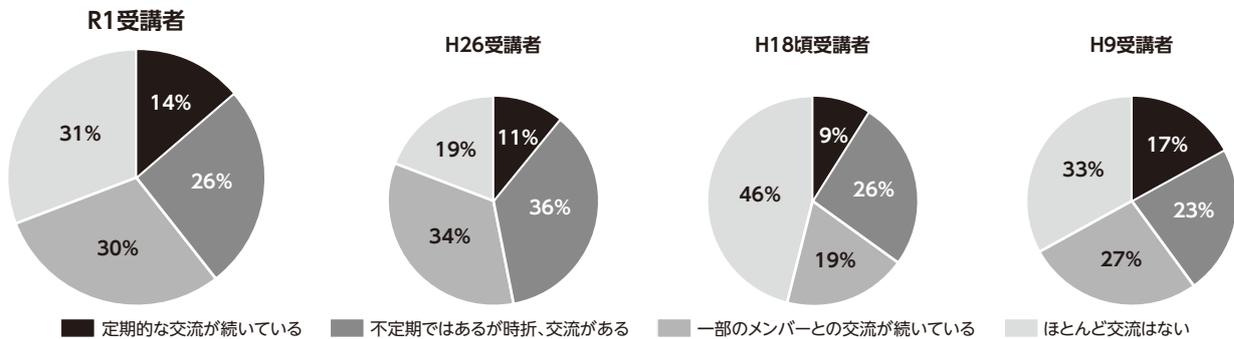


初任行政研修がセクショナリズムの弊害是正に意義があったか聞いたところ、6割程度の者が「大変有意義だった」又は「おおむね有意義だった」と回答しており、前回調査結果と同様の傾向となっています。

新型コロナウイルス感染症の流行が始まってから2年以上が経過し、その間、コロナ前のような人と人との交流ができなくなって、同期会を開催することも困難な状況が続いています。初任行政研修に限らず、受講者からは、「研修後もつながりを継続できるような企画を実施して欲しい。」という要望を寄せられることが多くあり、多くの受講者が研修で得られた人脈を継続していきたいと考えているものと思われます。

このコロナ禍がいつまで続くか予測できませんが、今回アンケートを実施した3年目フォローアップ研修のような研修を行うことや、研修実施中に研修所から受講者同士で連絡先を交換するなどネットワーク作りをするよう積極的に働きかけることなど、初任行政研修をきっかけとした人脈が続いていくよう支援していきたいと思えます。

⑤ 研修の同期との交流の状況はどのようなですか



研修の同期との交流状況について聞いたところ、「一部のメンバーとの交流が続いている」という者も含めると約7割の者が交流が続いていると回答しており、前回踏査結果と同様の傾向となっています。コロナ禍で、対面での交流が難しい状況においても、同期との交流を継続しようとしている様子が見えます。

同期とのネットワークが役立つことがあるか、そのエピソードを聞いたところ、業務関係では、「カウンターパートが研修同期であったため、各省庁間の調整がスムーズにいった。」という回答が多く寄せられました。また、同期がカウンターパートではなくとも「担当部署がわからない場合に同期に相談して特定できた。」という回答や、「他省庁の現状や業務上の疑問点などを気軽に問い合わせられ、コミュニケーションをとる心理的ハードルが低くなった。」という回答も寄せられました。初任行政研修を受講し、採用後3年目となっている職員は、各省庁において、省庁間、省内各部署間の調整を行うポストにすることが多く、このような調整を行う際に、研修で得られた人脈が業務上直接的に役立っている様子が見えます。

また、業務外では、「悩み事があったときに相談し、同じ目線で意見、アドバイスをもらえる。」という回答が多く寄せられました。中には「他省庁の同期の結婚式に参加した。」という回答もあり、研修同期という枠にとどまらず、研修中から研修後にかけて、人間関係を深めている様子が見えます。

⑥ 今後の初任行政研修に望むこと、初任行政研修に関して思っていること

最後に、今後の初任行政研修に望むこと、初任行政研修に関して思っていることを聞いたところ、回答者数(551人)中186人の方から回答がありました。

単語の出現頻度が多かった名詞は「コロナ」、「省庁」、「対面」、「機会」、「実施」、「地方自治体」など、動詞は「思う」、「できる」など、形容詞は「良い」、「ほしい」、「難しい」などの言葉でした。代表的な意見を御紹介します。

- 他省庁同期と直接の仕事抜きで関わり関係性を作る重要な機会なので、コロナを機に短縮するのではなく、しっかりと復活し、関係性を作る機会としてほしい。
- コロナ禍の状況が続くことで、なかなか地方自治体・福祉施設等で実地体験を行うことは難しい状況であると認識しているものの、当手を振り返って今の糧になっていると大きく感じるのは実地体験のため、状況が改善したらぜひこれから入省する後輩にも体験する機会があると良いと思う。
- この研修を通じて他省庁の同期の考え方などを知り、自分の分野外の視点を持つことができた。成長のチャンスになると思うので、今後も後輩たちには研修の機会を設けてあげてほしいと思う。
- コロナ禍で仕方ないと思うが、オンラインだけでなくたとえ数日であったとしても対面での研修を行った方がいいのではないと思う。同期がいつの間にか辞職しているということが最近では多々あり、そういうときに、もう少し同期間でのつながりがあれば、同期も頑張っているからもう少し頑張ろうだったり、引き留めることもできたりするのではないと思う。

(3) まとめ

今回の調査により、前回調査におけるH26受講者に対する調査結果と、今回調査におけるR1受講者に対する調査結果はおおむね同じ傾向であることが分かりました。平成26年度と令和元年度では、基本的なカリキュラム構成に大きな違いはないことからこのような調査結果となることは当然と考えることもできますが、安定的に評価の高い研修を提供できていることがわかりました。これは研修の実施に当たって、毎年不断の見直しを続けている成果と考えられ、このような努力を今後も引き続き実施していく必要があります。

今回の調査対象は、5週間の初任行政研修を受講したR1受講者でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和元年度までの研修とは実施期間、実施方法、研修内容などを大きく変更して実施した令和2年度及び令和3年度の初任行政研修受講者では、異なる結果となる可能性があると思います。

地方自治体など現場訪問ができなかった影響、カリキュラムを大きく変更した影響、期間が短縮された影響（以上令和2年度及び令和3年度共通）、対面で研修が実施できなかった影響（令和3年度のみ）がどのような影響を及ぼしているか大変気になるところであり、今後、継続的に調査を行いたいと考えています。なお、令和3年度初任行政研修受講者に、希望する研修期間をアンケートで聞いたところ、その平均は、合宿2.5週間、通勤1.2週間、オンライン0.8週間合計4.5週間でした。

公務員研修所としては、令和2年度初任行政研修受講者が、地方自治体など現場訪問ができなかったことを考慮し、当該受講者らが令和4年度に受講する3年目フォローアップ研修において、研修所が所在する埼玉県入間市の協力をいただいて、企業等への現場訪問をカリキュラムに組み込む方向で検討しています。

新型コロナウイルス感染症の影響はまだ続くと思われませんが、受講者のため、ひいては国民のためになる研修となるよう、引き続き努力していきたいと考えています。

(柳田健一・厨子幸恵・阿曾杏奈)

意見調査票

令和3年度初任行政研修（オンライン実施）

今後の行政研修の参考としますので、積極的かつ建設的なご意見をお聞かせください。

- ※この意見調査票は必ずデスクトップ等にコピーしてから入力をしてください。
- ※お知らせいただいた内容は、研修業務のみに使用し、個人情報保護法に基づき適正に管理します。
- ※集計処理の都合上、回答欄につきセル結合・削除・追加をしないで下さい。
- ※回答を修正したい場合にはDeleteで消すことができます。

研修員番号	所属	氏名（氏と名の間にスペース不要）

↑ 研修員番号が1～9番の方は01～09と入力してください。

1. 初任行政研修第一週目を受講して、心に残っていることを一つ30字程度で記載してください。

（例：公務員としての自らの軸を持つことの大切さ、広い視野を持つことの重要さ、現場を知ることの大切さ、自己研鑽の重要さ、他省同期との横の連携の大切さ等）

2. その心に残っていることを意識し続けられていましたか。（選択式）

↓
（①～④の場合に回答してください。）

その心に残っていることが、業務遂行上、直接的又は間接的を問わず役立つがありましたか。

「あった」又は「なかった」を選択し、その後の質問に回答してください。

あった → 具体例を簡潔に記載してください。（自由記述）

なかった → その理由（選択式）

③ その他の具体的内容

ご協力ありがとうございました。

意見調査票

初任行政研修に関するアンケート

今後の行政研修の参考としますので、積極的かつ建設的なご意見をお聞かせください。

- ※この意見調査票は必ずデスクトップ等にコピーしてから入力をしてください。
- ※お知らせいただいた内容は、研修業務のみに使用し、個人情報保護法に基づき適正に管理します。
- ※集計処理の都合上、回答欄につきセル結合・削除・追加をしないで下さい。
- ※回答を修正したい場合にはDeleteで消すことができます。

研修員番号	所属	氏名（氏と名の間にスペース不要）

↑ 研修員番号が1～9番の方は01～09と入力してください。

1. 今振り返って、初任行政研修は意義があったと思いますか。（選択式）

（参考）初任行政研修では、地方自治体・福祉施設等での実地体験、政策課題等に関する班別討議・発表、次官講話や大学教授等の講義、公務員倫理を考える等のカリキュラムがありました。

2. 次の項目について、初任行政研修を通じて新たな気づきがあったと思いますか。

① 従来にはなかった新しい視点の獲得（選択式）

② 異なった価値観、新しい価値観の受容（選択式）

③ 地域の歴史・文化、社会・経済への関心（選択式）

④ 多様な人々の多様な立場や考えの理解（選択式）

⑤ 社会の在り方や行政の役割の考察（選択式）

3. 新たな気づきによって、変わったこと、新たに取り組んだことがあればお書きください。

4. 以下の項目について、初任行政研修を通じて醸成又は自覚することができたと思いますか。

① 公務員の使命と職責（選択式）

② 公務員の倫理観（選択式）

③ 現場重視、国民目線への意識（選択式）

④ 府省の枠を超えて政策を考える意識、府省を超えた信頼関係（選択式）

⑤ 政策の企画・立案に必要な能力（選択式）

⑥ 行政ニーズの多様化、複雑化への対応に必要な能力（選択式）

5. 初任行政研修がセクショナリズムの弊害是正に意義があったと思いますか。（選択式）

6. 研修の同期との交流の状況はどのようですか。（選択式）

7. 同期とのネットワークが役立つことができましたか。（選択式）

（「はい」の場合）そのエピソードをお書きください。

8. 今後の初任行政研修に望むこと、初任行政研修に関して思っていることを自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました。